

これからの介護保険、どう変わる？ 2040年に向けた新しいかたち



2040年、日本の社会はこう変わる



**85歳以上の人口が
ピークに。**

介護と医療の両方が必要な方が増加します。



**支える世代（生産年齢
人口）は減少。**

介護職員は2040年度までに約57万人の追加確保が必要です。



**ひとり暮らしや認知症
の方、頼れる身寄りが
いない方が増加。**

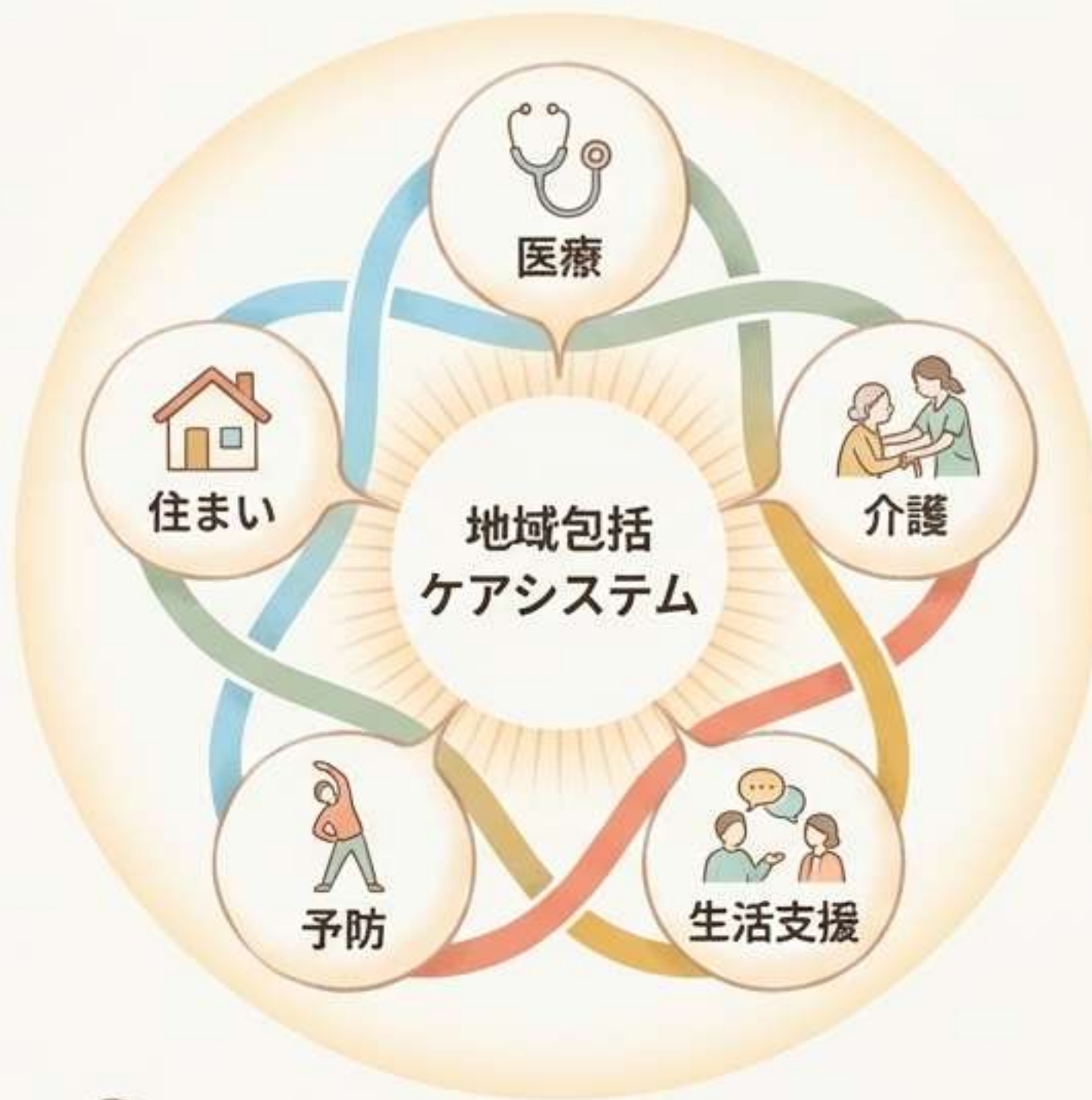
支え方の見直しが求められます。

目指すのは、一人ひとりの地域に合わせた、持続可能な介護



地域特性に対応

(地域の人口構造やサービス需要の変化に合わせた体制づくり)



支え合いの仕組みを強化

(専門職と多様な主体が連携する地域づくり)



制度の持続可能性を確保

(世代間・世代内の公平性を踏まえた給付と負担のバランス)

「まちの個性」に合わせたサービス提供へ

中山間・人口減少地域

サービスの維持・確保のため、人員配置基準の柔軟化など、地域の実情に応じた特例的な仕組みを設けます。



大都市部

増え続ける介護ニーズに対応するため、多様なサービスやテクノロジー活用を推進します。

一般市等

将来の需要の変化に備え、既存の介護資源を有効活用しながら、過不足なくサービスを確保します。

医療、住まい、専門家。地域ぐるみで支える体制を強化



医療と介護の連携

地域の協議の場を活用し、
85歳以上の複合ニーズに対応できる
医療・介護連携体制を構築します。



住まいの支援

有料老人ホームの透明性を確保し、
事業者の「困り込み」等を防ぎ、安心
して住み続けられる仕組みを整えます。



認知症支援と相談体制

認知症の方や頼れる身寄りがいない方など、
多様な課題に対し、地域ケア会議などを
活用し、切れ目なく支援します。

介護の担い手を守り、育てる

生産性向上で、働きやすく



テクノロジー活用や介護助手等との業務分担（タスクシェア）を進め、職員の負担を減らし、ケアの質を高めます。

連携と協働で、キャリアを支える



事業者間の連携・協働化を支援し、経営改善や働きやすい職場環境づくりを地域一体で推進します。

公平で、みんなが納得できる助け合いの仕組みへ

給付 (Benefits)



必要なサービスは、これからも
誰もが安心して受けられるように。

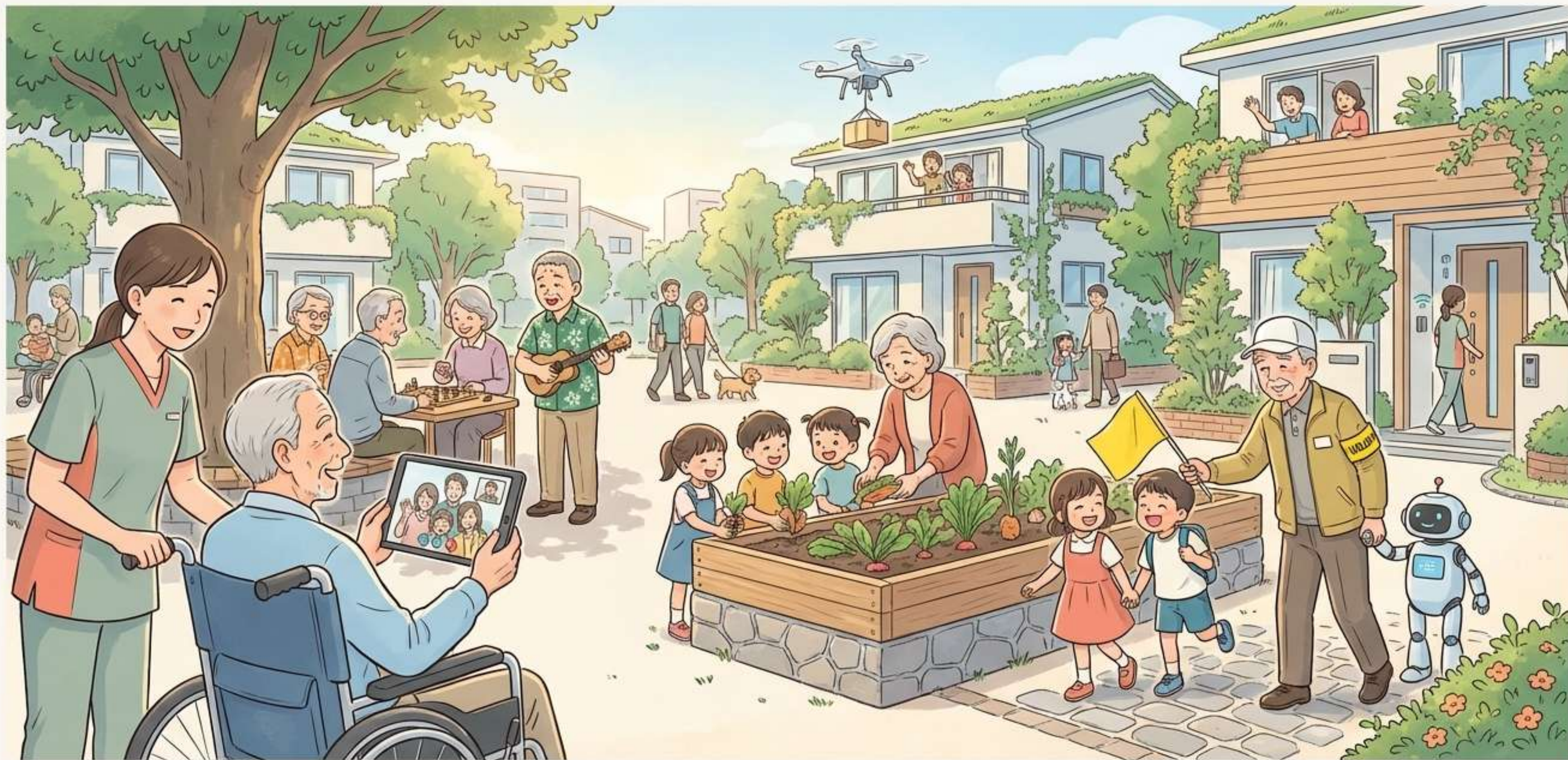
負担 (Burdens)



支える力に応じた、
公平な負担のあり方を検討します。

制度の持続可能性を高めるため、利用者負担や保険料のあり方について、世代間・世代内の公平性の観点から見直しを続けます。

2040年、私たちが目指す地域の姿



まとめ：これからの介護保険 4つのポイント



地域に合わせたケア

大都市部、中山間地域など、まちの個性に応じてサービス提供体制を柔軟に見直します。



地域ぐるみの支援

医療・介護・住まい・専門家が連携し、地域全体で支える仕組みを深化させます。



担い手への投資

生産性向上や職場環境の改善を通じて、介護の担い手を守り、育てます。



公平な仕組み

誰もが納得できる公平な給付と負担のバランスで、制度の持続可能性を確保します。

**誰もが安心して、
自分らしく暮らせる社会へ。**

